

設問番号	(1)
解答又は 解答例	評価にあたっては、以下の点を重視する。 (1-a) 高度経済成長期、安定成長期、バブル経済期、バブル崩壊後の長期停滞期という時期区分が考慮されているか。 (1-b) 二重構造の解消、日本的雇用慣行の定着、高齢化、非正規雇用の拡大などの要因に適切に言及し、各時期の格差の変化を説明できているかどうか。 (1-c) 再分配前後の所得を区別しているか。資産と所得を区別しているか。
出題の意図	本問は、日本の所得格差について、単に「不平等が拡大している」という印象論ではなく、1960 年代以降の日本経済の発展段階と、労働市場や社会保障制度の変化を関連づけて説明できるかを問うことを意図した。 大学院において日本経済史を学修するにあたって、所得格差を歴史的・制度的文脈の中で捉え、時期区分や要因を整理し論述できる基礎的な学力を有しているかを確認することを目的とした。

設問番号	(2)
解答又は 解答例	評価にあたっては、以下の点を重視する。 (2-a) 短期的な総需要拡大政策については、1960 年代の証券不況や、プラザ合意後の円高不況など、適切な具体例に言及し、適切に説明できているか。ただし、総需要拡大政策の効果に対する異なる見解であってもよい。 (2-b) 長期的な所得の増大については、ソローモデルおよび高度経済成長期を適切に関連づけて説明できているか。ただし、高度経済成長期の説明として資本蓄積以外の要因に言及していてもよい。
出題の意図	この問題は、所得増加を単なる「景気がよくなること」と理解するのではなく、短期における需要の役割と長期における生産の役割を区別して理解しているかを問うことを意図した。 大学院において日本経済史を学修するにあたり、総需要拡大政策や経済成長の理論的な枠組みを理解した上で、それを戦後日本経済の具体的事実と結びつけて説明できる基礎的な分析力を有しているかを確認することを目的とした。

設問番号	(3)
解答又は 解答例	評価にあたっては、以下の点を重視する。 (3-a) ジニ係数とローレンツ曲線の定義と性質、および、両者の関係を理解しているか。相対的貧困率など、他の格差指標の定義と特徴でもよい。記述内容により適宜加点する。 (3-b) (3-a)の指標の限界、あるいは、分析に用いるにあたって注意しなければならない点に言及しているか。

出題の意図	この問題は、所得格差を表す典型的な指標の定義と特徴を理解し、それぞれの指標が捉える格差の側面と限界を説明できるかを問うことを意図した。 大学院において日本経済史を学修するにあたり、経済統計の指標を正しく読み解き分析に活用できるか、また、その統計の限界を踏まえて戦後日本の所得分配を議論することがきるかを確認することを目的とした。
-------	--